

平成 7 年 1 1 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel0428-23-6859)

飛べない虫－オサムシ－

そろそろオサムシも冬籠りに入ります。

手塚治虫の「鉄腕アトム」は知っていても、ペンネームの「治虫」の語源が、虫のオサムシであることは意外と知られていないようです。少年時代に宝塚で蝶やオサムシを追いかけていたのが、後年「治虫」のペンネームのきっかけとなり、数多い作品の中にしばしば昆虫の登場する布石となったようです。

手塚治虫を魅きつけた「オサムシ」とはどんな虫なのでしょう。オサムシはカブトムシやカミキリムシと一緒に固い翅を持つ鞘翅目に分類されています。字が難しいことから最近はコウチュウ目とカタカナで表示されることも多くなっています。この中のオサムシ科オサムシ亜科という一群を通常オサムシと呼んでいます。日本には 2 8 種のオサムシがいますが、青梅市にはこのうちマイマイカブリ、アオオサムシ、エサキオサムシ（クロオサムシの亜種）、クロナガオサムシの 4 種が分布しています。食肉性の昆虫で、アオオサムシやエサキオサムシはミミズの死骸など小動物の死骸を食べて片付けてくれることから、森の掃除人とも呼ばれています。マイマイカブリは細長い首を突っ込んでカタツムリを専門に食べるという変わった習性を持っています。

オサムシの魅力は、緑や青や赤銅色の金属光沢の美しさと、その色が種によって異なり、また同じ種でも地方によって微妙に変化していることにあります。オサムシは後翅が退化しているため飛ぶことができません。そのため大きな川や山に隔てられると個体群の交流ができなくなり、日本列島の第四期の長い時間の経過で地理的に変異が著しくなっています。通常は緑色のアオオサムシが房総半島では赤色になったり、マイマイカブリの関東では紫色の部分が、東北では赤銅色、北海道では緑色になっています。

エサキオサムシはクロオサムシの亜種で本州の関東地方から新潟県にかけて分布しています。青梅市では丘陵部から低山地に普通に見られる虫です。ところが、青梅市より東の方では見られなくなります。沖積平野は成立が歴史的に新しいためこの虫がいないのですが、今のところ八高線が分布地境界になっていて、その東側の狭山丘陵にもいません。多摩川の上流では標高が高くなるとエサキオサムシは見られなくなります。源流部の塩山市落合まで行くマルバネオ

サムシという秩父山地の西側に分布を持つクロオサムシの別亜種が生息しています。この中間地点にはルイスオサムシという別種のオサムシが入りこんでいて、エサキオサムシ、マルバネオサムシ、ルイスオサムシの3種が多摩川流域で競合することなく棲み分けています。この3種の分布の境界や移行帯がどうなっているのかまだ詳しく分かっていません。このため青梅市の御岳山や高水山から丹波山村、小菅村にかけての地域にどのオサムシがどのように分布しているか興味の持たれているところです。

(文責 久保田)

＊ 青梅市郷土博物館では11月1日より江戸時代から昭和時代の看板から、ちらしを集めた『特別展 商いの宣伝－青梅の看板とちらし－』を開催しております。ぜひ、御覧ください。
会期1月21日まで。